



二星

気仙沼市立唐桑中学校

令和4年度
校長室便り

第3号 6月10日発行

先日、地区中総体の報告会が行われました。その中で話をした内容です。

まず、君たちが試合にあたって最善を尽くしてくれたことに感謝します。本当にありがとう。そしてお疲れ様でした。君たちの頑張りはもちろん、私がすごく驚いたのは、保護者の皆さんの応援です。朝、君たちが出発するときから、帰りを迎えるまで、君たちを大切にする温かい眼差しと「よくやった！」と鳴り響いた拍手がすごく印象的でした。

さて、大会における勝敗は時の運もあります。自分たちが思い描いたような結果を掴み取ることができた人は残念ながら少なかったかもしれません。

悔し涙を流した人に言いたいことがあります。その悔しさ、悲しみを大事にしてください。忘れるなんてしなくて良い。ただ、その悔しさや悲しみと同じくらい、部活動を通して得た、感謝する気持ち、うれしかったことも思い浮かべてください。

悲しみや悔しい気持ちを心の中できちんと受け止め、同時に、心から人に感謝する気持ちを持つことができれば、人の心はしなやかに、折れにくくなります。

以前の集会でお話したことを覚えていますか？「感謝」の反対は「当たり前」ということ。

家族の応援や助けは当たり前だった、なんて思わないようにお願いします。お弁当を作ってくれたり、朝、起こしてくれたり、試合会場までわざわざ送ってくれたり。実は、なかなかできることではないのです。いつか、今の悔しい気持ちや悲しさが癒えたら、タイミングをみて、これまでの「ありがとうございました」という思いを伝えてくださいね。

タイミングと言えば、私は「機」という言葉を思い浮かべます。「機会」の「機」、「好機」の「機」です。「タイミング」の他にも「チャンス」などという意味があります。

例えば、ある日の練習試合で、「よし、課題は分かった。家に帰ったらトレーニングしよう。」なんて意気込んで帰ったは良いものの、いざ、家に帰ると、つつい手がスマホに伸びたり、ゲームをしてしまったりといった経験はなかったでしょうか。「いいや、明日にしよう。」なんて課題を先延ばしにしたことはなかったでしょうか。私たちは「機」を逃してしまうことが多い。よく「後悔しないように頑張れ。」と言いますが、終わってみると、私たちは「機」を逃したばかりに、後悔が残ることも多いのです。

いや、どうだろう。むしろ、後悔するから、次のステップで大きく成長できるとも言えるかもしれません。何事にも後悔はもちろんある。その後悔を、どのように生かしていくかが大事ですよ。

これから、陸上大会や中間テストが待っています。地区中総体を「機」として、この大会で得た思いを次に生かしてほしい。いや、生かさなければ、これまで中総体に向かって努力し続けた自分自身がかわいそうです。悔しい思いが浮かばれません。絶対に、このタイミング（「機」）を生かしてください。チャンスは今です。

最後に。本気で物事に取り組む「機」は、あればあっただけ成長のチャンスとなる。今、陸上大会の選手に挑戦するかどうか、もし、悩んでいる人がいれば、ぜひ、挑戦してほしい。中学校時代は何事もそうですが、迷っているなら、絶対に挑戦した方がいいですよ。本気で挑戦できる機会は貴重です。それに、何度だって失敗していいのです。「成功」の反対を覚えていますか？そう、「何もしない」です。

皆さんのこれからの挑戦を、ますます楽しみにしています。そして、心から応援しています。

子供が健やかに育つ背景



24時間営業の店舗が増えてからというもの、生活リズムは様々になりました。また、色々な価値観や生き方の多様性が認められている現在の世の中です。

そんな世の中であって、様々な家庭環境、生育歴も異なる子供が集団で生活するのが学校です。問題のない学校はどこにもありません。もちろん本校も例外ではなく、日々、子供たちは成長に伴う様々な悩みを抱えています。勉強のこと、将来のこと、部活のこと……。思春期ですから、身体のことや人間関係でも不安が大きくなりますし、時にはトラブルも失敗もあります。

「今の世の中、学校の先生って大変な仕事だね。」とよく言われます。確かに大変ですが、その分、子供たちや保護者の皆さんから感動をもらえる、素晴らしい仕事です。

唐桑中に来て、授業参観の人数がすごく多かったことに感激しました。さらに、今回の中総体の見送りや出迎えの様子を見て、多くの保護者の皆様が子供たちを見送り、教員と笑顔で会話してくださっている姿にも感激しました。もちろん、お仕事や諸々の事情で来られなかった方もいらっしゃると思いますが、その方々の分まで子供たちに愛情をそそぎ、都合がつく限りは学校に協力して下さろうとする、「保護者の力」。

校長として、心からありがたく感じています。



手前味噌になりますが、本校の教員も、教育のため、子供たちの成長のため、一生懸命に真摯に取り組んでいます。そして、保護者の皆様も子供たちのために精一杯頑張ってくださいます。

「子供たちの未来のため」

学校と保護者が手を取り合って教育活動を進められる唐桑中学校。本当に素敵な学校だと思います。

これからもよろしく願います。

【保護者の皆様へ】

～安心・安全で居心地の良い学校を目指し～

【いじめの定義】（「いじめ防止対策推進法」より）

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等、当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

「いじめ防止対策推進法」という法律があります。この法律のポイントは「『いじめ』かどうかは、行為を受けた側が決める」というところです。

行為をした側が、「いじめる気持ちはなかった」とか「ふざけていただけ」と言ったとしても、「いじめではない」とは判断しません。

行為を受けた側が「いじめられた」と感じたら、学校はその出来事に対し、「いじめ防止対策推進法」に沿って対応していきます。そもそも「苦しい、辛い」と感じるレベルは人それぞれです。たとえ相手にとっては何気ない言葉や行動でも、もし、自分のこれまでの人生の中で、同じような言葉、行為で深く傷ついた経験があれば、似たような言葉や行為を受けてしまうことで、苦しい気持ちになるのは当然のことです。

本校職員は「いじめを絶対に見逃してはならない」という強い気持ちで取り組みます。いじめを受けた生徒からしっかりと話を聞き、問題の解決に向け、人間関係をより良くしていくために教員が仲立ちします。また、人間関係はすぐに改善するとは限りませんので2か月以上は面談を行いつつ、経過観察に努めます。

「いじめられて苦しい」と感じたら、我慢をせずに相談するよう、お話しください。

「いじめ」に限らず、現在のような変化の激しい世の中では、自分で解決できない悩みを抱えている場合もあります。本校では、次のような体制づくりに取り組んでいることをご承知ください。

1 **複数担任制を取り入れ、相談しやすい環境づくりに努めています。**

例えば、男子生徒は女性の先生に自分の弱みを相談しづらい場合もあるかもしれません。学年に複数の教員を配置することで、相談しやすいように配慮しています。

2 **月に一度、生活アンケート**を行っています。

学校生活アンケートは、学校で書くのではなく、家に持ち帰らせて書かせています。次の日の提出とすることで、書くための時間をしっかり作っています。

また、提出のときには封筒に入れさせるなど、記入した内容が他の人に分からないようにしています。

質問の内容は次のとおりです。

- (1) 学校は楽しいですか（充実していますか）。
- (2) 前回のアンケートから現在までに、自分の周りで「いじめ」と思われるようなことをされたり、見たり聞いたりしたことがありましたか。
- (3) (2)で「ある」と答えた人に質問します。それは、どのような様子でしたか。
- (4) 携帯電話やスマートフォンの利用について、困っていることはありますか。
- (5) (4)で「ある」と答えた人に質問します。それはどのような内容ですか。
- (6) 今、先生に相談したいことはありますか。
- (7) (6)で「ある」と答えた人に質問します。それはどのようなことが教えてください。

3 **スクールカウンセラーが月曜日に来校**します。

4月から本校に派遣いただいている、高橋義孝先生は、これまでに、様々な学校でご勤務なされた経験豊かなカウンセラーです。現在、生徒との距離を近づけるために、全校生徒と順番にお話をする機会を設けているところです。

現代社会においては、相談しても解決が難しい悩み事が多いものです。しかし、そんな世の中だからこそ、抱え込まずに問題を共有し、より良い生き方を一緒に考えることが大切だと考えます。保護者の皆様も、もし、お子様のことで困っていることがあればご相談ください。



冷やかし・悪口
嫌なことを言われる



仲間はずれにされる



暴力



金品をとられる
壊される



嫌なことや危険なことを
される・させられる



インターネット上で
嫌なことをされる